

役に立たないものはない

人は年を取ると、だんだんと若い者から疎んじられるようで、「濡れ落ち葉」だの「化石」だのと、ひどい言い方をされますが、さてその若い者が大きく育ったのは、だれのおかげでしょう。そんなことを考えさせられるお話を一つ。

いつ見ても暇そうなのはヘソばかり

という川柳があるように、おヘソというのは、体の他の部分に比べて、何の役にも立っていないように見えます。それで、手や足や心臓や胃袋は、ことあるごとにヘソに皮肉を言いました。「わたしらは、一日中のべつまくなしに働いているというのに、ヘソさん、君はいつもひまそうでいいね」ヘソは、あんまり言われるのでつらくなって、こう言い返しました。「それなら言わせてもらうけれど、君たちがまだお母さんのお腹にいる時、この僕がひとりがんばって、一生懸命、君らに栄養を運んでやったからこそ、今もこうして元気に働けるのじゃないかね」

さあ、どうでしょう！！
やっぱり、役に立たないものはないのですね。

今こうして生きられるのは、親のおかげ、祖父母のおかげ、ご先祖様のおかげ、周りの人みんなのおかげであることも、決して忘れてはいけないことと思います。

そして全てに感謝の心を！！！！